

○2019 年度 KPI 自己評価表

活動指標(KPI)に対する自己評価を各ワーキンググループでは以下の表のように評価している。なお、自己評価の基準は、「A 評価…目標達成できた」、「B 評価…目標達成に向けての課題がある」、「C 評価…目標達成は困難である」である。

WG-A

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己 評価
産官学連携事業	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	産官学連携を推進することを目的に、産業界に向けた研究紹介ハンドブックの作成、大学間共同研究を推進するための研究設備の共同利用の検討、大学発ベンチャー企業設立を目指した産学共同研究の支援、異業種交流研究会の開催を実施した。 本年度、KPI について、産学共同研究が 1 件実現し、産官学共同研究の推進に向けた連携体制の整備ができたが、細かな課題が見えたことから自己評価は「B」とする。	B
インターンシップ・採用活動支援事業	地域連携インターンシップ活性化事業について、最終年度までに参加企業や事業所 30 社以上(延べ数)、参加学生 100 名以上(延べ数)を実現する。	地域内企業への新卒就職を促進することを目的にインターンシッププログラム開発、インターンシップ&業界研究フェア+SDGs、新規学卒者の就職・採用活動支援を実施した。 本年度、インターンシップ活性化事業として、総計 49 社の事業所、57 名の学生が参加したので、KPI の達成に対する自己評価は「A」とする。このような KPI の進捗状況から、次年度には数値の上方修正を検討する必要がある。	A
UIJ ターン推進事業	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	地域内への UIJ ターン推奨事業として、就職・転職活動の人数把握に関する検討会、就職・転職活動者への情報発信・発信媒体に関する検討会を実施した。 本年度、KPI の成果は得られていないが、第一に必要とされた UIJ ターン者の人数把握方法が共有化された。しかし、UIJ ターンの情報発信に対する課題が残ったので、自己評価は「B」とする。	B

取組事業	活動指標（KPI）	事業活動状況	自己 評価
生涯学習拠点整備事業	地域住民向けの公開講座の参加者を最終年度までに、2018年度比で 100 名以上増加させる（延べ人数）	本年度は、公開講座 19 講座と専門講座 1 講座を実施し、参加者は延べ 532 名であった。2018 年度比で 91 名増加しており、初年度から目標に近い数値まで達している。	A
地域住民に向けた健康増進支援事業	地域住民向け健康支援イベントを最終年度までに 5 件以上行う	本年度は、4 件のイベントを実施することができた。「健康づくりリーダー養成講座（初級・中級）」「健康ウォーキングイベント」「認知症とともに生きるために（セミナー・ワークショップ）」「健康IoT リーダー養成講座」。次年度も継続して実施したい。	A
国際交流促進事業・まちづくり支援事業・びわ湖周辺環境整備事業	・産官学地域連携を生かしたまちづくり活動等に参加する学生を、最終年度までに 2018 年度比で延べ人数 100 名以上増加させる ・びわ湖環境ビジネスメッセでブースを設け、学生によるブース発表を最終年度までに 5 件以上行う	本年度は、137 名の学生がまちづくり活動に参加した。この事業は新規事業のため、2018 年度比で 137 名の増加となり、目標を達成できた。次年度以降も継続して実施していきたい。 「ビジネスメッセ」は、学生のブース発表が 4 件できたことは成果であったが、次年度は事業が中止になるため、活動指標の再考が必要である	A
ネットワーク推進事業	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する	「プラットフォーム・セミナー大会&交流会」と「学生の地域貢献活動報告会&交流会」の 2 回開催した。自治体・産業界・各種団体と協働で実施することができたが、活動団体の満足度調査を実施することができなかった。次年度からは実施していきたい。	B

取組事業	活動指標（KPI）	事業活動状況	自己 評価
・SDGs をテーマとした共同講義事業 ・単位互換事業	・SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。	・SDGs 単位互換科目「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーション～近江の暮らしとなりわい～」を3日間実施した。 ・キャンパス SDGs びわ湖大会「キャンパス SDGs びわ湖大会～地域と共に育む新しい価値の創造～」を開催した。 ・単位互換提供科目「滋賀論」を前期集中講義として3日間の期間で開講した。	B
・幼・小・中・高校生への学習支援事業 ・地域内進学促進事業	・幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。 ・プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。	・こどもプログラミング教室を1日間実施した。 ・不登校プロジェクト（彦根市と近隣の不登校の実態についての研究会及び他の地域の取組の視察、研修会）を実施した。 ・地域内進学促進意見・情報交換会を1回実施した。	B
・地域人材活性化支援事業	・社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。	・SDGs 地域人材育成事業としてSDGs 活用型課題解決ワークショップ等を3回実施した。 ・キャリアアップ講座「子どものプレパレーション検討会」を3回実施した。 ・学びのカレッジ（理論講座、実験体験講座、現地講座）を9回実施した。 ・本を紹介してみませんか 2019～POP・本の帯コンクール～で作品を約2か月間募集し、コンクールを1回実施した。 ・ナイチンゲール看護研究会・滋賀を毎月第3火曜日に例会として実施した。また講演会を1回開催した。	A
・共同FD/SD事業	・共同FD/SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上	・共同FD研修会を「互惠の関係にもとづく大学の授業デザイン」をテーマに実施した。 ・共同FD研修会を「現象学的に人間を理解する」をテーマに実施	B

	及び教職員の質の向上に役立てる。	した。 ・共同 SD 研修会を「大学と地域との関わり方について～西南まちづくりラボを例に～」をテーマに実施した。 ・SDG s シンポジウムを「SDGs を利用した地域の活性化」をテーマに実施した。 ・初等教育懇話会を実施した。	
--	------------------	---	--

各 WG の自己評価の判断につながった具体的な活動状況については、事業報告書「4. ワーキンググループの取組」において詳細に記載してあるため、個別活動の活動状況についてはそちらを確認していただきたい。